

全国安全週間期間中に安全指導を実施

今年も7月1日からの「全国安全週間」を迎え、「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」をスローガンに、会員企業が労働災害の防止に取り組んでいます。

林土連では、毎年この期間中に会員企業の現場を訪ね、安全に関する指導を行っていますが、今年は前橋林業土木協会の協力を得て、期間中の7月4日に、菊池専務理事が群馬県の会員企業が受注した林業専用道新設工事の現場を訪れ、安全指導を行いました。地元協会からは西中常務理事が同行し、合同で安全指導を行いました。

当日は、台風3号が近づく雨模様の中でしたが、前橋市の「三原工業株式会社（取締役社長三原豊彰）」が受注した「平成28年度岩氷林業専用道新設工事（H28ゼロ国）」の現場において、同社の常務取締役の小関隆則さん、土木部長の岡田勉さん、現場代理人の中村豊さんから工事内容や安全活動について説明をいただきました。

菊池専務理事からは、林土連会員に特徴的に多い4大事故の「斜面からの墜落・転落事故」、「重機の転落事故」、「工事現場の土砂崩落事故」、「立木伐採時の事故」の防止について説明し、理解を深めていただきました。また、熱中症の対策についても、注意を促しました。

現場責任者の中村さんからは、林業専用道の新設工事では作業をする場所が狭いため、不整地運搬車などの転落事故の防止に特に気を使っているが、今回の現場は車廻し、退避所を兼ねた「作業ポイント」がところどころに設置されており、安全と作業効率の両方を確保できたと、発注者の設計上の配慮に対して感謝の言葉がありました。

また、休憩施設のそばには雨量計が設置されており、異常気象情報等が発令された時の「作業中断」など現場対応の判断基準となる降雨量の測定に用いているとのことで、緊急時の安全対策にも積極的に取り組んでいる姿がたいへん印象的でした。



三原工業(株)の現場での指導



工事現場に設置された雨量計